

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第148版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中！

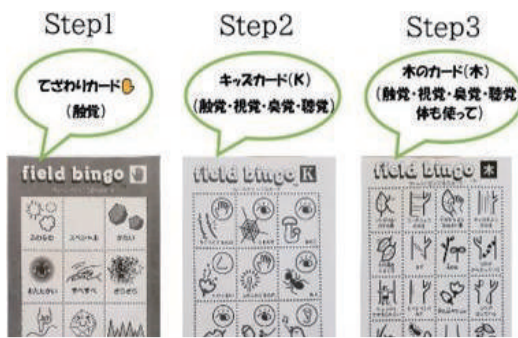
カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵

## 拡がる実践



子どもたちが楽しくなる環境づくり！

の質問にお答え頂きました。

大分県の普照こども園様に、弊社主催「ミマモリングソフト」セミナーで実践発表をして頂きました。発表内容は、「ミマモリングソフト」の環境領域。社会・自然現象の「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」の発達項目についてです。

子どもたちにより自然に興味を持って欲しいと「ネイチャーゲーム」という取り組みをしたそうです。セミナー参加園の皆様から事前に頂いた「グループはどのように組んだのですか？ 自然に興味関心を持たない子に対しては何か工夫しましたか？」など

発表を聞いた先生は、「自園でも、お散歩へ行くときにカードを用意し、子どもたちが自ら発見することを楽しんで、嬉しさを感じられるようにしたいです！」と仰っていました。また、普照こども園様の「保育実践シート」を見て、取り組みを真似した園では、3・4・5歳児の異年齢グループで秋の植物や果物を見つめるビンゴゲームを行ったと言います。最初は園内で探し、見つからなかったものは園外で発見し、ビンゴが揃ったら、子どもたちに首飾りをプレゼントしました、とご紹介を頂きました。

普照こども園様の実践が他園に伝わり、子どもたち自身が発見や不思議さに気付ける環境づくりに繋がっていることに嬉しさを感じました。

## 場づくりで変わる

先日、オンラインにてソフトセミナーの実践発表編（後編）を開催しました。

今回は「参加者にとって一番の学びになる環境づくりとは何か」を考え、セミナー前編で実践内容を纏めていただいた全てのレポートを皆さんのもとにお送りしました。参加者の皆さんが「実践発表を聞きたいレポートに投票し、票の多い実践を発表して頂く」という形式を取らせていただきました。



実践発表のダイジェストは上記QRコードか下記よりご覧いただけます！  
<https://www.youtube.com/watch?v=LX3iv9Ue24E>

その中で、熊本の新明保育園さんの実践発表から学ばせていただいたことがありまして。それは、参加園が提出してくださった20を超えるレポートを園内研修のみならず、休憩室の閲覧板など、みんなが必ず見る環境の中に置いたという工夫でした。「今月は園内研修でレポートを共有する時間が取れないから、みんながふとした時に手に取りやすいように」という思いから用意したそうです。

それによって、「この実践、今の子に合うかも！ 真似したい！」「前にこの実践して

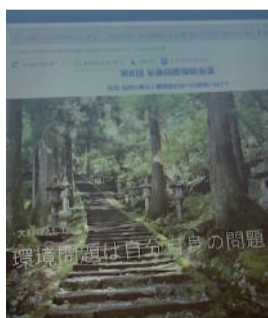
## 環境問題と価値観の転換

昨年の「宗像国際環境会議」のプログラムのひとつとして「聴福庵」にて行われた座談会が非常に好評だったこともあり、座長を務めた弊社代表が今年「環境問題と価値観の転換」をテーマに登壇することになりました。当日は代表から「環境問題は自分自身の問題である」と話があったように、環境問題を辿っていくと、環境の問題というより人の問題であり、人の心の貧しさや引き起こしているものは大きいことを確かに感じます。

そういう意味では、保育や教育にも深く関係があることを改めて感じますが、では「心豊かに過ごしていくために、は？」と考えてみると、暮らしを整えていくことにひとつのヒントがあるように思えます。日本には四季があり季節の移ろいに合わせた行事や食

事、室礼など暮らし方があり、そうして自然との繋がりを忘れずにいられることで、大きな繋がりの中に自分が存在しているという安心感や感謝、心の潤いを取り戻せるように思います。それは大自然の中に身を置くと感じることが多いものですが、暮らしの中でも感じる事ができれば、暮らしと共に自分自身の心が日常的に整い、それはやがて世界全体が整うことに繋がっていくのではと希望も感じます。

また、そんな横の繋がりがけでなく、時代を超え子孫に渡していくように縦の繋がりを意識して暮らすことが大切なのかもしれません。「自分一人が取り組んでも何も変わらない」と思わず、「子どもたちにどんな環境を残せたいのか、どんな未来を繋いでいきたいのか」と考え、行動してみることが大事なことなのだと感じています。



オンラインにて配信された当日の内容は、後日アーカイブ配信予定です。



昨年行われた「徳が循環される共生圏へ」をテーマにした座談会の様子は、こちらからご覧いただけます。



普照こども園様の実践発表動画の一部をご覧頂けます！  
QRコードを読み取って頂くか、  
<https://youtu.be/3mlJ0x90>  
上記のURLからご覧ください！

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

### もういくつ寝ると…



昨年のおせち料理の年賀状。かぐや姫も隠れていました！

例年、お客様やパートナーの方へお送りしていたクリスマスカードに代わり、昨年から年賀状という形式で新年のご挨拶をしています。これは年賀状という馴染み深い習慣を通して、日本特有の行事や伝統を伝えていけたらと考えたからです。

また、この年賀状が大人はもちろん子どもたちの学びになり、心豊かになるものでありたいと考え、第一

弾の昨年は、お正月の習わしといえど…ということでも、おせち料理をテーマにしました。テーマを設けることで、私たち自身も起源や料理一つひとつの意味を知ることができました。また、昔の人がどれだけ行事を大切にしていたか、その行事に込められた思いを知ることができ、学びを深める機会にもなりました。

第二弾の今年のテーマは皆様の手元に届くまでのお楽しみとさせて頂きますが、ヒントはお正月に家族みんなで盛り上がる「アレ」です。カグヤの子ども第一義の理念を、イラストレーターさんとデザイナーさんが遊び心を加え、表現してくださいました。お手元に届きましたら皆様でご覧頂き、遊んで頂けたら幸いです。皆様が一年のスタートを心晴れやかに迎えられる一助になることを願っています。

### 日本の智と慧 暖をとる

滋賀の我が家には今も「練炭火鉢」があります。最近は何となく出番が減りました。田舎の日常はエアコンをほとんど使わず、まだまだ「石油ストーブ」と「こたつ」が活躍しています。これらの暖房器具には「部屋を暖めるもの」と「人を暖めるもの」があります。日本家屋から「囲炉裏」がなくなってきたら、「手あぶり火鉢」や「こたつ」のあるところが「家人を暖める場」になりました。そこは、家族が「暖をとる」ために自然と集まる場所でもありました。



炭火のやわらかい暖かさに誘われ、手をあぶっていると、いつの間にか静かにこころもあたたまってきます。

そしてその「暖」を「みんなでシェアし合う」と同時に「みんなで場を暖め合うゾーン」でもあったのです。人が寄るから会話があり団欒があった、それが「家族の温かさ」にもなったのでしょ。マンションと違って、日本家屋には家のなかにも「冬」があります。「寒いから人が寄って暖め合う」ここにも人の輪をつくる先人の智慧があったようです。

### 一期一会庵

### 宗像国際環境会議

先日、宗像国際環境会議に登壇し「暮らしフルネス」の話をしてきました。ここでの「暮らし」の定義は決して現代の便利な生活をさらに便利にしようとするものではありません。むしろ多少の不便さを快適に味わいながら、人類の普遍的な発展をしていこうとするものでもあります。

例えば、資源がなくなっていくことがわかっていて資源を貪りつくせば、遂には砂漠のような国土になって人も生き物も住めないようなところに変わり果ててしまいます。それが分かっていてもやめられないとするのは人類として決して豊かなことではありません。むしろ貧しさの極みです。

豊かさというものは、そもそも持続可能なものであり消失せずに循環をし続けるものです。先ほどの資源の話であれば、その資源はそもそも人間だけ、自分だけのものではありません。みんなで借りて使っているものです。それは自分の身体もまた同様です。借りているものだから、前よりも善

いものにして返していこうとするのが循環であり豊かなことです。そう考えてみるとむかしの人が目

を付けたのはいつまでも長持ちする素材、すぐに再生して繁茂する素材、自然に負荷をかけない素材だったのは安易に想像できます。それは竹であったり、蔓であったり、土や石などです。

本来の人類の進化というものは、真善美といった人間が持つ神秘的なセンスを磨き上げて、その感性で気づいた全人格的な徳を使い、そのあとにテクノロジーと調和していくことにあると私は思います。私が懐かしいものと新しいものを和合していこうとするのもその思想から取り組んでいるものです。

気候変動も待たないで環境が激変していくこの世界で真に必要なのは、徳であり、その徳を世界と共有することだと私は感じています。子どもたちのためにも、自分の役割を理解し、実践を全うしていきたいと思います。



### 編集後記



いつの日か「聴福庵」で実践発表を行いましょう！

猛暑と報道が続いた今年の夏も、過ぎてしまおうと随分前に感じ、気付けばもうすぐ12月。朝晩の寒さは日に日に増していきませんが、この時期だけに発見できるものに子どもたちは目を輝かせているのではないのでしょうか。実践発表についてお聞きかせ頂いた先生は、「うちの園で

もやってみようと思いました！」と晴れやかに話をされていました。今はオンライン上での実践発表会ですが、いつか福岡にある古民家の「聴福庵」に来て頂き、暖をとりながら、これからの「保育」について語り合う機会を設けられたらと思っています。

(奥山)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

